

<https://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/>

CONTENTS

- 01 ■ 男女共同参画関連図書の展示が始まりました
- 02 ■ 部長インタビュー（医学部附属病院長・繊維学部長）
- 03 ■ 男女共同参画アンケートFAQ（ワーク・ライフ・バランス編）
■【予告】LGBT等ガイドライン（仮）制定のための現状アンケート調査の実施について
- 04 ■ NEWS&TOPICS ■ 子育てコラムリレー

中央図書館で 男女共同参画関連図書の展示が始まりました

令和3年7月7日より、中央図書館において男女共同参画関連図書の企画展示が始まりました。ジェンダー、LGBT、男性の育児休業関連等、多岐にわたり取り揃えております。

男女共同参画が目指す社会とは？現実の問題や課題は？その背景は？理解を深めたり、考えるきっかけとなれば幸いです。展示している図書は貸出可能です。ぜひお立ち寄りください（一部、電子ブックもあります）。

蔵書リスト

男子はつらいよ

- ✓女子ばかり鼻息（ひいき）されている気がする
- ✓逆に、男性差別だと思っ損をしているのはどっち？

頑固オヤジはいない方がいいけれど、その成分は私たちの中にもある。

なぜ皆が「生きづらい日本」になってしまったのか？悪かったのはオヤジか、オヤジ以外か？脱線に次ぐ脱線のオンパレードなのに、気が付けば本題を深く掘り下げている、橋本治の筆力はさすがです。

何がどこで起こっているか。
世界の現状を知ってるつもりになっていませんか？

理系と文系の溝は深い？

To理系「もっとわかりやすく説明してほしい」from文系
To文系「それ何の役に立つの？と聞かないで」from理系

文系理系の歴史から 社会が見えてくる

いまさら聞けない「人生100年時代」
×長い老後のために資産運用しよう
○マルチステージの人生を生きよう

信大で毎年講義されている
星野慎二先生の著書です。

画像をクリックすると信州大学附属図書館OPACの検索結果画面が表示されます。

展示場所：中央図書館南2階テーマボックスB（エレベーターホール）
詳細は中央図書館のウェブサイトからご覧いただけます。 → [中央図書館のウェブサイトへ](#)

医学部附属病院長・繊維学部長 インタビュー

令和2年4月1日、医学部附属病院長に就任された川真田樹人先生と、令和3年4月1日に繊維学部長に就任された森川英明先生に中島男女共同参画推進センター長が男女共同参画の現状等についてインタビューをしました。

各部局における現状と課題をお伺いしました。質問項目は以下の2点です。

- ①男女共同参画の現状について
- ②働き方について

医学部附属病院長



かわまた みきと
川真田 樹人
医学部附属病院長



1 医学部附属病院の教員における女性比率は20%（令和3年5月1日現在）です。ただ分野によってはかなり差があり、私の専門である麻酔科蘇生科だと40%程度が女性です。20～30代の若い世代だけで見ると逆転していると思います。また承継教員は10人程度ですが、非常勤医師を含めると、48人中26人（54.1%）が女性です。他にも皮膚科や精神科でも女性医師が増えています。外科は依然として女性医師は少ない傾向にありますが、それでも少しずつ増えてきています。また病院には医師だけでなく、看護師や技師など様々な職種の方がいます。看護師についていえば9割以上が女性で、勤務を3交代制にするなどしていますので女性が働きやすい環境になっていると思います。外科については、まだ昔ながらの24時間病院にいて家には帰らないのではないかというイメージや、シャワー室や仮眠室がないなどの環境面から、入りづらいところがあるのかもしれませんが、少しずつ変わってきています。本院でも奥さんが外科手術もする産婦人科医で、ご主人が麻酔科医、という昔の感覚でいうと逆転している夫婦もいます。病院の男女共同参画のためには、結局は働き方改革になりますが、24時間病院にいるような働き方だと、女性だけでなく、男性も働きにくいですからね。環境を整えて少しずつ改善してきていると思います。

2 病院では年に1回くらいのペースで働き方についてのアンケートを実施しています。アンケートの中で男女関係なくパワハラとか問題があると判断した場合には聞き取り調査も行っています。昔は声を上げることもできない環境でしたが、今は下から声が上がようになってきました。病院内では男女共同参画に関する問題よりも、給料についてとか、人手不足についての問題提起が多いです。ただ昔から給与や人手不足についての不満はどんな分野でも必ずあったと思います。人手が足りるということは難しいですね。ただ結局働いて楽しくないという不満は、ワーク・ライフ・バランスを変えたらすぐに上手くいくのではなく、恐らく家庭や職場の不満を統一的に解決していくことが必要だと思いますし、段々そうなっていると思います。

※本来であれば就任時にインタビューを実施しますが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策のためインタビューを見送り、令和3年5月21日に実施しました。

繊維学部長



もりかわ ひであき
森川 英明
繊維学部長

1 繊維学部は信州大学の学部の中でも女性教員比率が低くなっています（令和3年2月現在3.3%）。この4月には女性の准教授が1名増えましたが、それでも少ないですね（令和3年4月現在4.5%）。繊維学部でも女性限定公募を積極的に行っていますが、分野によっては流れてしまうケースも多く、私たちの思っていたとおりに女性教員を採用できていないというのが現状です。ただ学問の分野はもちろんのこと、社会全体の多様性はとても重要だと思います。教員について言えば、元来、男女に関係なく色々なアイデアを持っていると思いますが、女性の発想から出た研究・アイデアと男性のそれとでは視点など異なる部分もありますので、女性教員を増やすことでより多様な環境をつくり、その中で切磋琢磨しながら、また融合しながら教育・研究を進めていくという形を繊維学部内でもとっていければと考えています。

一方で、学部学生は24.2%（令和3年4月現在）が女子学生です。大学院では修士課程は学部生と同程度ですが、博士課程になると留学生が多いということもあり31.5%が女性です。しかし研究者として大学に職を得る女性比率は低くなる傾向にあり、それが日本社会独特のものなのかどういうメカニズムで起きるのかを知ることは重要だと思っています。



2 4月に学部長に就任してから、デジタル化・合理化も含めた教職員の仕事の見直しに入っています。大学の業務は複雑化し、また取り扱いが難しい部分もかなりあると思っています。事務職員の皆さんが管理的なルーティンワークから、分析や企画などよりクリエイティブな仕事に関われるようになっていけばと思います。そうすることで自分のミッションが明確になり、さらに自分自身でタイムマネジメントすることで働き方が変わっていけばと考えています。教員については、これまで文部科学省の大型プロジェクトなども数多く進め、産学連携・国際連携も拡張してきていますが、教員数が増えた訳でもなくかなりきつい部分がありました。この機会に教員らがきちんと「研究」を進められる環境を整備し、余計な仕事を見直し合理化して、時間を作っていけるようにしたいと考えています。また教員の時間が生み出されれば、教員と学生がディスカッションする時間も長くとれるようになってきますので、結果的に教育の効果、有為な人材の育成に反映されると思います。業務やプロセスなどで余計だと思える部分は削り先生方が研究に集中できる時間をつくる取組を、半年くらいかけて進めてゆきたいと思っています。

一方で自宅でのテレワークも進んでおり、ワーク・ライフ・バランスやタイムマネジメントの部分はかなり融通が利くようになってきました。家で子育てや介護をしつつ仕事を自己管理していく方法を模索していかなければならないと思っています。

家庭が大切だということは私自身も痛感しています。若い人たちには人生における家庭・家族の大切さを伝え、そうすることで構成員がその意識の上で自身の仕事と生活に関する自己管理（ワークライフマネジメント）ができる形になればと考えています。

※誌面は就任順に掲載しております。

インタビュー全文は男女共同参画推進センターのウェブサイトに掲載しています。
<https://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/awareness/interview.php>



男女共同参画アンケート FAQ 特集



男女共同参画推進センターで実施した「男女共同参画に関するアンケート」で多く寄せられた質問に回答します。今回はワーク・ライフ・バランスに関する質問について回答いたします。

介護に関する質問

Q 要介護認定はうけていませんが家族を介護しています。介護休業は取得できますか？

A 申出に係る対象家族が要介護状態にあること等を証明できれば取得の対象となります。証明書類は「医師の診断書」等に限定されていません。提出可能な書類で結構です。

Q 別居している家族の介護をしています。介護休業や介護休暇を取得できますか？

A 負傷、疾病又は身体上若しくは精神上の障害により、2週間以上の期間にわたり常時介護を必要とする状態(要介護状態)にある対象家族(※)を介護している場合であれば、別居していても、または扶養していなくても介護休業・休暇を取得することができます。

常時介護を必要とする状態に関する判断基準は厚生労働省のウェブサイトからご確認ください。

厚生労働省_よくあるお問合せ(労働者の方へ)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/koyoukintou/ryouritsu/otoiawase_roudousya.html

(※)対象家族は配偶者(内縁含む)、父母、配偶者の父母、子、祖父母、兄弟姉妹、孫

非常勤職員の休暇等に関する質問

Q 非常勤職員の場合、産前・産後休暇や育児休業、介護休業期間中は無給になるのでしょうか？

A 育児・介護休業期間中は常勤職員と同様に無給になりますが、雇用保険に加入していて休業開始前の2年間に賃金支払基礎日数が11日以上ある月が12箇月あり、休業開始時において本学で1年以上雇用保険に継続加入していて、休業終了後に職場復帰する方、これに加えて育児休業の場合は子の1歳の誕生日以後も継続見込みがある方、介護休業の場合は休業開始予定日から起算して94日以上継続雇用の見込みがある方であれば、雇用保険より「育児(介護)休業給付金」が支給されます。産前・産後休暇も無給になりますが、健康保険の被保険者の場合は出産手当金が支給されます(1日につき標準報酬日額の3分の2に相当する額)。

Q 介護休暇や子の看護休暇は非常勤職員も取得できますか？

A 非常勤職員も取得可能で、令和2年度より有給の特別休暇になっています。介護休暇は対象家族1人につき1年(1月~12月)に5日(対象家族が2人以上の場合は10日)、子の看護休暇は小学生未満の子ども1人につき1年に5日(2人以上の場合は10日)取得できます。他にも非常勤職員が利用できる特別休暇があります。詳細は「非常勤職員(シニア雇用職員)の勤務時間、休日、休暇等に関する規程」をご覧ください。また非常勤職員の職種は「非常勤職員任免規程」の「別表(第2条関係)」をご覧ください。

上司のワーク・ライフ・バランスへの理解

Q 信州大学では管理職がイクボス宣言をしていますが、宣言内容と行動が伴っていない管理職がいるように思えます。

A 令和3年4月より管理職が自身のイクボス度をチェックできるよう「あなたのイクボス度をチェック」を実施しています。またイクボス研修特設サイトを開設し、管理職にさらにイクボス度を高めていただく研修を受講してもらい、イクボス宣言が形骸化しないよう取り組んでいます。

管理職のイクボス宣言はこちらからご覧いただけます。

<https://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/awareness/iku-boss.php>

研究者のワーク・ライフ・バランス

Q 小さい子どもがいて、子育てに時間を取られてしまい、研究にかける時間がなかなか取れません。何か支援策はありますか？

A 男女共同参画推進センターでは妊娠、育児、介護等のライフイベント期間中の研究者の両立支援のため、研究補助者制度を実施しています。要件を満たせば男性も女性もご利用いただけます。利用要件等詳細は、男女共同参画推進センターのウェブサイトをご覧ください。
<https://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/initiatives/kenkyuhojo.php>
募集期間は原則7月と1月ですが、妊娠がわかった場合や、急に介護が必要になった場合などは期間外の申請も受け付けますので、まずは男女共同参画推進センターまでご相談ください。

[予告] LGBT等ガイドライン(仮)制定のための現状アンケート調査の実施について

信州大学では、すべての学生と教職員がその能力と個性を十分に発揮することができる学内環境を整備するため、LGBT等ガイドライン(仮)の策定を予定しています。ガイドライン作成に向けて、性的マイノリティについての認識・現状を調査し、信州大学に対して学生・教職員からどのような要望があるのか等について把握することを目的として、アンケート調査を実施する予定です。

◆調査日：令和3年8月中旬から実施予定

◆対象：信州大学の学生・教職員

◆回答方法：ウェブ回答方式(GoogleForms)

※アンケート回答フォームは男女共同参画推進センターのホームページに掲載します。

回答はあくまでも任意であり、回答したくない事項をお答えいただく必要はありません。また、ご記入者のお名前など個人を特定するような情報を記入する箇所はありません。ご協力よろしく願いいたします。

■ 男女共同参画講義「人生100年時代のライフデザイン」終了報告

令和3年度も共通教育カリキュラムの中の「基礎系・現代社会論」として、男女共同参画講義「人生100年時代のライフデザイン」を開講しました。今年度は100名の学生が登録し、オンライン(Zoom, オンデマンド配信)形式で男女共同参画、ジェンダー、キャリア、LGBT等について学びました。この講義は毎回講師の違うオムニバス形式の講義で、多くの外部講師もお招きし、行っています。今年度は新たに保育事業(保育園へのお迎え付き夜間保育・学童保育)、働く女性支援、子育て支援者育成事業を手掛け、長年にわたり働くママをサポートしてきた認定NPO法人あっとほーむ代表の小栗ショウコ氏を講師にお招きし、両立支援の現場から見た貴重なお話をいただきました。

また横浜商科大学教授の田中聖華先生を講師にお迎えした回では「キャリアビジョンを描いてみよう」と題しキャリア形成に関する貴重なお話を聞く機会となりました。

小栗ショウコ先生の講義「仕事と子育て 両立支援現場から」 受講者の感想(学生・教職員)

- ・差別が依然として残っているということ、性別によって自分の行動を左右されるべきでないということが示されていて、とても参考になりました。
- ・少子化対策につながる取り組みとして、子供を産むことをデメリットにしないように支援する体制があることが分かり、とても良かった。
- ・「今、自分のしていることは、何のためにしているのか、何に役立つのか等の目的をもって取り組んでいるか。目的を考えなければ、ただの作業になってしまう」の言葉にハッとしました。普段、自分が行っている仕事、作業になりつつあったので、目的をしっかりと思い浮かべて仕事をしたいと思いました。
- ・講義のなかで何度も男女差別に関する話が出ました。男性、女性としてではなくお互い個人として接していくことが大切だと学び、教師を志す身としてとても役に立った。
- ・男女共同参画社会が完全に完成するのは難しいかもしれませんが、出来る限り理想に近づけたら良いなと思いました。

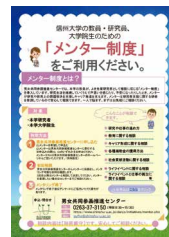
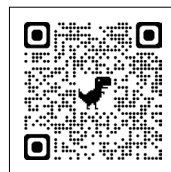
■ 男女共同参画推進センターのメンタリングが男性研究者も対象になりました

男女共同参画推進センターでは、本学教員が、よき先輩研究者として相談に応じるメンタリングを導入していますが、これまでは男性研究者の場合は、配偶者が研究者である場合のみ対象としておりました。しかし男性からの要望も多くあったため、令和2年度より制度の見直しを進め、今年度より男性研究者もご利用いただけるようになりました。

メンターが研究や教育上の課題解決を支援しキャリア発達を支えます。研究生生活を継続していくうえで戸惑いを感じたり、不安になったりしたとき、ご利用ください。

▼お申込はこちら

<https://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/initiatives/mentor.php>



▲メンタリングチラシ



このコラムは、本学で子育てをしながらお仕事されている教職員の方に、日頃の育児の様子をご紹介いただくコーナーです。

8歳と3歳の娘2人と、多忙な夫の4人家族です。騒々しい朝に始まり、仕事を終えた18時から全力勝負、寝かしつけでようやくゴール(寝落ち)。ゆっくりとこどもの成長を噛み締める時間もない日々ですが、幸いなことに2人とも健康に学校や保育園へ通っています。毎日寝顔を見ながら、そのことに感謝しています。

貴重な週末は夫の趣味であるキャンプに付き合いますが、インドア派で虫嫌いの長女は渋々、次女はびよんびよん飛び跳ねてついでにきます。梅雨明けの時期は暑過ぎて熱中症寸前で、娘たちは冷房を効かした車内へ避難させました。疲労回復にも時間がかかるので、趣味も程々に、と思っています。



かみやもとこ
神谷 素子 先生

医学部医学科
小児医学教室・遺伝医学教室
特任助教

家族構成

夫、長女(8歳)、次女(3歳)

あなたのリラックス方法は?

休日に子供達とお昼寝する時
早朝にまだ薄暗い空を眺めている時



ライフスタイルが変化する度、数年後の自分を想像しながら、新しいことにも挑戦しています。育児・家事・仕事をこなすのは日々困難を感じつつ、今しかできないこと(育児、今やれること(仕事)、頑張らないこと(家事)を地道に続けながら、自分と家族の健康を祈りつつ、日々を過ごしています。



次回はコチラ!

市村 美香 副看護師長
医学部附属病院 看護部

お問い合わせ

信州大学 男女共同参画推進センター (SuFRE)

スフレ

信州大学 スフレ

検索

〒390-8621 松本市旭 3-1-1
内線 811-2150, 811-2140
TEL 0263-37-3150 FAX 0263-37-3314
mail sufre@shinshu-u.ac.jp

教育学部分室
〒380-8544
長野市西長野 6-口
内線 831-4018

工学部分室
〒380-8533
長野市若里 4-17-1
内線 821-5693

農学部部分室
〒399-4598
上伊那郡南箕輪村 8304
内線 851-3120

繊維学部部分室
〒386-8567
上田市常田 3-15-1
内線 841-5031

バックナンバーはこちらからご覧いただけます。 ▶ <https://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/article/sufre/>